

2025年6月4日
株式会社SVPジャパン

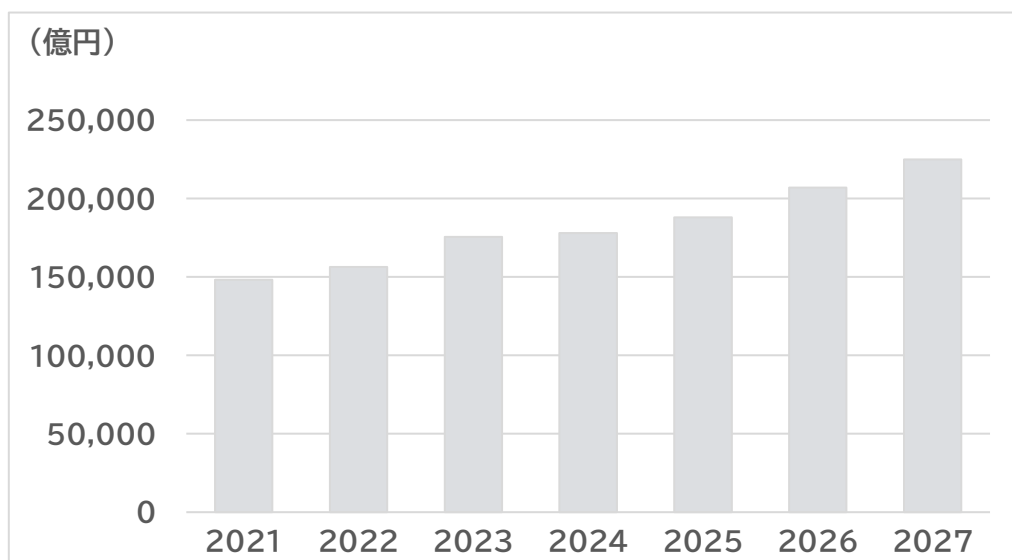
SVP注目市場分析 「リチウムイオン電池（LiB）」を公開

～日本発の電池技術、世界市場で再飛躍なるか～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「リチウムイオン電池（LiB）-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■リチウムイオン電池（LiB）の世界市場



リチウムイオン電池（LiB）は、軽量・高出力・長寿命といった特性から、モバイル機器や電動工具などの民生用に加え、電気自動車（xEV）や蓄電システム向けの需要が拡大している。もともと日本で開発された技術であり、現在もパナソニック エナジー、ジーエス・ユアサコーポレーション、TDK、東芝、村田製作所などが主要プレイヤーとして存在感を保っている。

2024年の世界市場規模は約17.8兆円と推定されており、そのうち約77%を車載用が占める。日本企業の多くは北米やアジアに生産拠点を持つがパナソニック エナジーは、SUBARUやマツダなど国内自動車メーカーとの提携を通じて、国内におけるLiB生産体制の強化を進めている。こうした背景から、国内市場はxEV需要と再生可能エネルギー導入を軸に、今後も着実な拡大が見込まれている。

■ リチウムイオン電池（LiB）の市場概況

リチウムイオン電池市場は、電動車（xEV）の普及と再生可能エネルギーへの転換ニーズを背景に、世界規模で成長を続けている。近年は定置用LiBの需要も拡大し、用途の広がりが市場の成長を後押ししている。車載用では中国・CATLの価格引き下げにより一時的に金額成長が鈍化したが、出荷数量は堅調で、全固体電池の実用化が見込まれる2030年代前半まで需要拡大は継続すると予測される。主要プレイヤーはCATL、BYD、LG Energy Solutionの3社で、世界シェアの大半を占める。日本勢は、北米市場での生産拠点拡大や、国内外の自動車メーカーとの提携を通じて巻き返しを図っている。定置用では電力インフラやデータセンター向けの採用が進み、民生・産業両面で用途の多様化が進展している。中長期的には、環境規制やエネルギー政策の変化に対応しながら、持続的な市場成長が期待される。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

7月のテーマは「産業用燃料電池」と「リチウムイオン電池電極材料」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com